

東京都内の城東・城北地区のマンション供給数は、都内の他地区に比べて景気悪化の影響が小さい。マンション関連コンサルタントのトータルブレイン(東京・港、久光龍彦社長)が、こんな調査結果をまとめた。大規模開発が相次いだことや都心への距離感が評価されたという。

東京のマンション供給 城東・城北地区 不況の影響軽く

対象区域は練馬区や板橋区など城北6区と台東区や墨田区など城東5区に比べ落ち込みが小さい。16路線122の計11区。民間調査

対象区域は練馬区や板橋区など城北6区と台東区や墨田区など城東5区に比べ落ち込みが小さい。16路線122の計11区。民間調査

都心への近さ評価

民間調査

駅を分析した。対象エリアの直近1年間のマンション供給数は5235戸。東京スカイツリーなどで大規模開発地区の人気が高まったことが背景にあると指摘している。

みられる。大手町や新宿など都心に15〜20分でアクセス可能な物件が多いことも評価された。

一方で、人気があるエリアは都心から5〜6キロ圏内や人気がある駅など一部に限られるため、久光社長は「価格を高め

に設定したマンションは売れ残る傾向がある」と指摘している。